

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
G305	公共経済学 / 公共経済学 I	3年	講義	2	森寛史
授業概要 公共経済学は、政府の経済的役割について検討することを目的とする。市場が失敗するときに、政府による公的な介入が正当化される。そこで講義では、政府の経済行動を幅広く取り上げ考察していきたい。その前提として、市場の機能や経済の仕組みについて復習をしていながら政府の役割のその意義を取り上げていく。具体的には、政府によるさまざまな規制の問題、外部性、公共財、課税、財政赤字と公債などを講義していく予定である。					
到達目標(学習の成果) 公共経済学は、政府の経済行動を理論的に分析する応用経済学の一分野であるのでこれまで勉強してきたマクロ、ミクロの経済理論の理解が不可欠である。そうした基礎知識についての十分な理解を得ることが、まず第一の目標である。更に、その上で政府が行うさまざまな経済行動の意義とそれが経済社会にどのような影響を及ぼすのか、具体的にどう私たちの生活に関わっているのかを捉えられるようにすること、その際に経済分析の手法が有用であることを学習の目標である。(DP3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	公共経済学とは	公共経済学とは、どのような学問であるのか、研究対象の概要を講義する。			
2	市場と政府(1)	市場にはどのような機能があるのか、ミクロ経済学の復習もかねて考察する。			
3	市場と政府(2)	市場経済の非効率性の問題、所得再分配機能など政府が果たすべき役割について講義する。			
4	参入規制について	参入規制はなぜなされるのか、またその弊害について考察する。			
5	価格規制について	価格抑制政策や価格維持政策が持つ問題を経済学的に分析する。			
6	独占と公的規制	独占に対しては、公的規制が正当化されるゆえんを検討する。			
7	外部性とは何か	市場機能がうまく働かない代表例として外部性を取り上げ、その意味と是正策について分析する。			
8	ピグー課税	外部不経済を内部化する方法としてのピグー課税について講義する。			
9	コースの定理	ある種の外部性については、政府の直接介入の必要がない場合がある。コースの定義の意義と限界について考える。			
10	公共財について(1)	公共財の概念とただ乗りの問題について講義する。			
11	公共財について(2)	公共財の最適供給に関する問題を考察する。			
12	準公共財とは	準公共財の概念、地方公共財について講義する。			
13	課税について(1)	間接税と直接税をその税負担の観点から比較検討する。			
14	課税について(2)	日本の課税体系の特徴とその問題点を分析検討する。			
15	課税について(3)	増税と政治との関わりについて、実態に即して考察する。			

準備学修(授業外の自己学修)

1, 2 年次に学習したマイクロ・マクロ経済学の基本的概念について復習しておくこと。

成績評価の方法・基準(%表記)

定期試験(70%)、課題(20%)、出席・授業態度(10%)

観点	S	A	B	C
経済学、とりわけマイクロ経済学の基礎についての理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
公共経済と私たちの生活との関わりに関する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

井堀利宏『基礎コース公共経済学 第2版』新生社2015年、2400円

参考書等

西垣泰幸編著『公共経済学入門』八千代出版2003年、2700円 他

履修上の注意・学修支援

公共経済学の研究対象は、私たちの身近な問題でもあるので、国の政策がどう変わろうとしているのか、新聞等の情報にも気を配ってもらいたい。